

# 講演会「生きがいのある高齢期の生活づくりを目指して」

エイジ・ジャパン設立準備委員会

日程：平成25年7月27日（土）

会場：公立大学法人新見公立大学併設学術交流センター

この講演会は、「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」で英国に派遣された既参加青年（平成20年度、平成24年度）が中心となって平成25年1月に発足したエイジ・ジャパン設立準備委員会により企画・実施されたものです。当日は96名が参加しました。

第1部では、斎藤利之氏（エイジ・ジャパン設立準備委員会代表）より「高齢化に伴う随伴症状」のメカニズムや身体構造が詳しく説明されました。第2部では、「英国における高齢者の価値観、医療・福祉制度の実際、そしてタイムバンキング制度の実例」について、英国からのスピーカー Jim Cuthbert氏を交え、セッション形式で進められました。一方的な知識の教示ではなく、参加者が当事者意識を持って話を聞く場面が作られ、内容についての理解を深めました。

## 講師Jim Cuthbert氏からのコメント

2012年10月、私が「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」英国派遣団（高齢者分野）の通訳を務めた際、初めて斎藤利之氏、そして後にエイジ・ジャパン設立準備委員会のメンバーとなる方々にお会いしました。2013年3月、斎藤氏と準備委員会のメンバーがもう1名、エイジ・ジャパン設立に向けた情報収集のために英国を再訪した際にも、通訳をお引き受けしました。斎藤氏の招きでエイジ・ジャパン設立委員会の役員として迎えていただき、主に英国と日本の橋渡し役をしています。

嬉しいことに、講演会には多くの方々に参加いただきました。大半は若い方でしたが、高齢の方も多数いらっしゃいました。斎藤氏が第一部を担当した後、第二部は斎藤氏と私のセッション形式で行われ、まずタイムバンキング制度についてお話ししました。タイムバンキング制度とは、買い物や庭仕事、ITの支援、家事、ベビーシッターなどの仕事をボランティアで引き受け、それに費やした時間を一時間1クレジットとして受け取り、それをお金の代わりとして同等のサービスを受けられる制度です。

この制度によって高齢者はサービスを受けられるだけでなく、法律に関する助言をしたり、歴史を教えたり（第二次世界大戦での自分の経験について若者に語るなど）、自身のスキルをいかしたサービスを提供することができます。この制度の主な利点は、1. 高齢者はサービスを提供することで、高い自尊心と大きな満足を得られ、2. 世代間の懸け橋が形成されることです。その結果、誰もが参加できる、よりインクルーシブな社会がもたらされます。その他にも、英国の国民健康保険サービスと認知症問題の概要について取り上げました。参加者からは大きな反響があり、様々な年齢層の方が関心を示し、質問が挙げられました。

高齢化の進む新見市でタイムバンキング制度が導入されれば、すばらしいことでしょう。エイジ・ジャパンが、日本での高齢者支援に直接携わり、また高齢者の生活向上のために政府に働きかけ、拡大発展していくことを願っています。

## 参加者の声

- ・タイムバンキング制度は初めて聞いたが、お金ではなく時間を時間で買うという考えはとても良いと思った。また、こういう制度があることにより、交流の場になるのではないか。（学生・女性）
- ・タイムバンキング制度が面白いと思った。導入すればボランティアが気軽に行える。（30代・パート・女性）
- ・タイムバンキング制度は、私たちの手で広げていかなくてはいけないと思います。（学生・女性）
- ・新見市にもタイムバンキング制度の導入を望む。（学生・男性）
- ・日本だけでなく英国の制度について理解できた。今日聞いた話を今後役に立てていきたい。普段聞けない話が聞けて良かった。（学生・女性）
- ・今後、介護職として役に立てていきたい。（20代・専門職・女性）
- ・聞いた内容を生活に取り入れたい。（70代・無職・男性）
- ・質問の時間を設けて欲しかった。過去受講した内容もかなりあったが、何度受講しても参考になり、それは実践に結び付けなければ意味がないので、今後実践していきたい。（80代・農業・男性）
- ・内容は分かりやすく理解できた。76歳の親のことを念頭におきながらお話を聞いた。効果的な運動についてまたお聞きしたい。（30代・無職・女性）
- ・座って話を聞くだけでなく、体を動かす場面もあったので、楽しかった。（学生・女性）
- ・運動継続の良い方法や事例があれば、また教えていただけるとうれしい。（40代・公務員・女性）

